

第 2 章 調査の結果

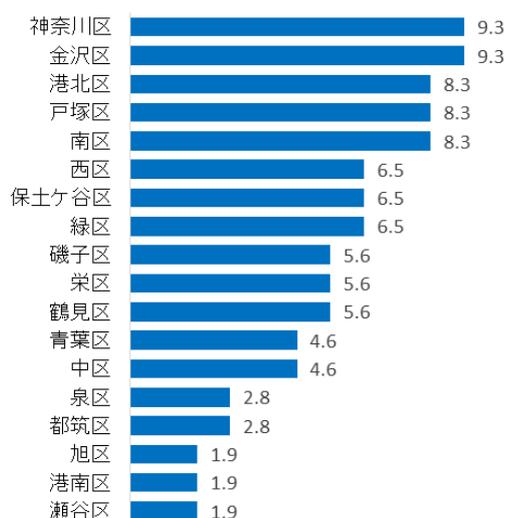
I 地域日本語教室

(1) 教室の概要について

● 区別分布

- 回答のあった教室は、市内 18 区全区に分布しています。区別の分布状況は、下の通りです。

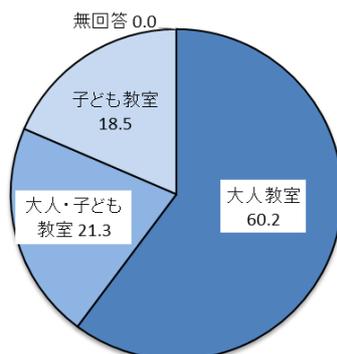
区別分布（問 1） n=108（単位：％）



● 教室の区分

- 本調査は、YOKE「日本語・学習支援教室データベース（横浜）」に掲載しているすべての教室を中心とする非営利の教室に回答を依頼しました。データベース掲載教室は、子どもも対象としている場合があり、本調査も区別なくこれも対象としました。
- 回答のあった教室（全 108 件）を、問 2①で把握した学習対象者の年齢層から、大人だけの教室（以後「大人教室」という。）、大人と高校生以下の子どもがいる教室（以後「大人・子ども教室」という。）、子どものみの教室（以後「子ども教室」という。）に区分すると、大人教室 65（60.2%）、大人・子ども教室 23（21.3%）、子ども教室 20（18.5%）となります。

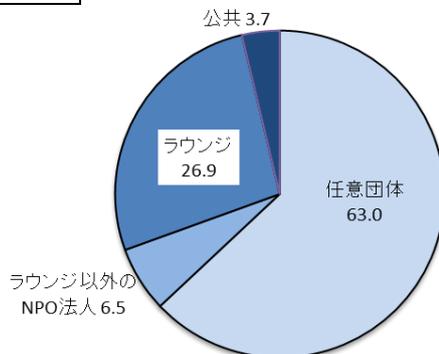
大人対象・子ども対象の教室の区分（問 2①付問） ※大人・子どもの人数記入の有無から区分 n=108（単位：％）



●組織形態

- 教室主催団体の組織形態の記入状況等から教室の形態を分類すると、任意団体（個人を含む）63.0%、国際交流ラウンジ 26.9%、ラウンジ以外の NPO 法人 6.5%、公共団体（県・区事業等）3.7%との分布状況となっています。

組織形態（問 1） n=108（単位：%） ※記述状況から集計

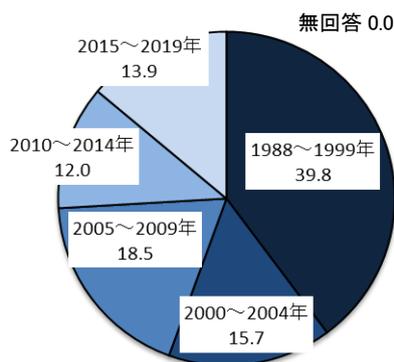


	合計	任意団体	NPO 法人	ラウンジ	公共団体	無回答
全体	108	68	7	29	4	0
	100.0	63.0	6.5	26.9	3.7	0.0
大人教室	65	41	4	17	3	0
	100.0	63.1	6.2	26.2	4.6	0.0
大人・子ども教室	20	12	2	6	0	0
	100.0	60.0	10.0	30.0	0.0	0.0
子ども教室	23	15	1	6	1	0
	100.0	65.2	4.3	26.1	4.3	0.0

●活動開始時期

- 教室の活動開始時期は、昭和 63（1988）年から令和元（2019）年まで分布しています。1988～1999 年が 39.8%、2000～2009 年が 34.2%、2010 年から 2019 年が 25.9%となっています（経年で見やすいよう西暦で表記しました）。

組織形態（問 1） n=108（単位：%） ※前身組織の開始時期を記載している場合、これを採用した。



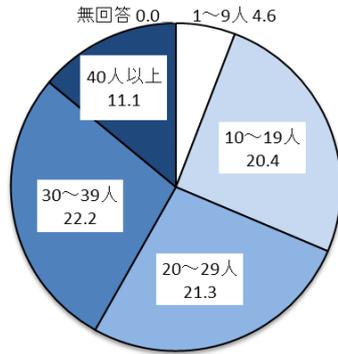
	合計	1988～1999年	2000～2004年	2005～2009年	2010～2014年	2015～2019年	無回答
全体	108	43	17	20	13	15	0
	100.0	39.8	15.7	18.5	12.0	13.9	0.0
大人教室	65	28	10	15	7	5	0
	100.0	43.1	15.4	23.1	10.8	7.7	0.0
大人・子ども教室	20	10	4	3	1	2	0
	100.0	50.0	20.0	15.0	5.0	10.0	0.0
子ども教室	23	5	3	2	5	8	0
	100.0	21.7	13.0	8.7	21.7	34.8	0.0

(2) 学習者について

●学習者数

- 定期的に学んでいる学習者の数は、最少2人から最多161人まで幅があり、1教室あたり平均26.1人で、10～30人台が約7割と多くなっています。子ども（高校生以下）の人数は、最少1人、最多49人、平均13.1人で、子ども教室は20人以下の教室が多くなっています。

定期的に学んでいる人の人数（問2①） ※記入された人数から区分 n=108（単位：％）



	合計	1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50人以上	無回答
全体	108	21	22	23	36	6	0
	100.0	19.4	20.4	21.3	33.3	5.6	0.0
大人教室	65	13	11	14	24	3	0
	100.0	20.0	16.9	21.5	36.9	4.6	0.0
大人・子ども教室	20	2	3	5	7	3	0
	100.0	10.0	15.0	25.0	35.0	15.0	0.0
子ども教室	23	6	8	4	5	0	0
	100.0	26.1	34.8	17.4	21.7	0.0	0.0

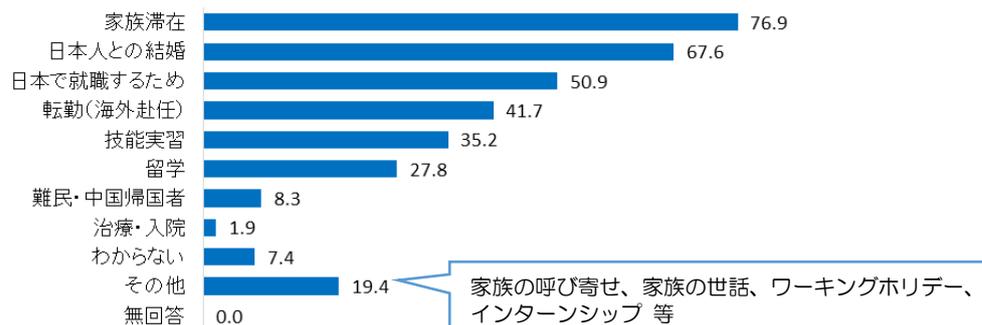
人数記入状況

	記入教室数	人数累計	n=記入教室数
学習者の人数	108教室	2,818人	最少2人、最多161人、平均26.1人
うち子ども（高校生以下）の人数	43教室	565人	最少1人、最多49人、平均13.1人

●来日の目的・日本語学習の目的

- 学習者の出身国は、約9割の教室が「中国」をあげ、次いで「ベトナム」「インド」「フィリピン」などアジア圏を中心に、欧米、中南米、アフリカ地域まで約50か国に及んでいます。（問2②）
- 学習者の来日目的は、「家族滞在」が76.9%、次いで「日本人との結婚」が67.6%と多く、これに「日本で就職」50.9%、「転勤」41.7%、「技能実習」35.2%、「留学」27.8%が続いています。

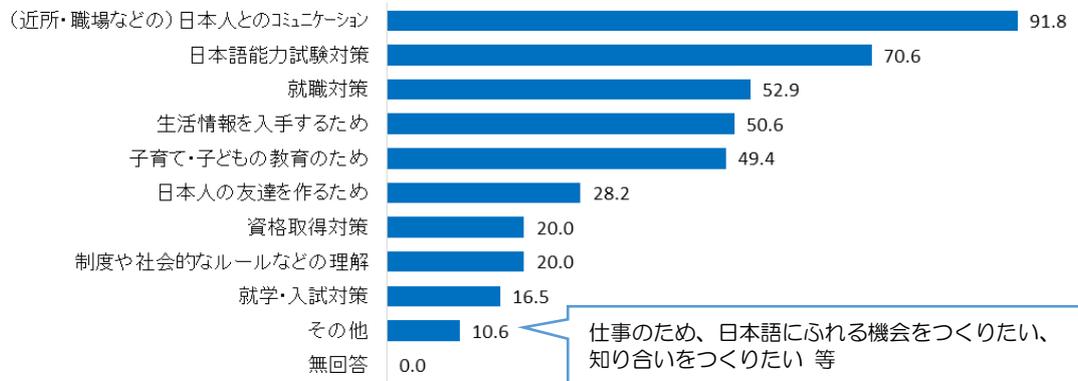
学習者の来日目的（問2③） MA n=108（単位：％）



	合計	留学	転勤(海外赴任)	日本で就職するため	技能実習	家族滞在	日本人との結婚	難民・中国帰国者	治療・入院	わからない	その他	無回答
全体	108	30	45	55	38	83	73	9	2	8	21	0
	100.0	27.8	41.7	50.9	35.2	76.9	67.6	8.3	1.9	7.4	19.4	0.0
大人教室	65	21	31	40	29	44	53	2	1	5	9	0
	100.0	32.3	47.7	61.5	44.6	67.7	81.5	3.1	1.5	7.7	13.8	0.0
大人・子ども教室	20	9	12	14	9	18	17	5	1	2	6	0
	100.0	45.0	60.0	70.0	45.0	90.0	85.0	25.0	5.0	10.0	30.0	0.0
子ども教室	23	0	2	1	0	21	3	2	0	1	6	0
	100.0	0.0	8.7	4.3	0.0	91.3	13.0	8.7	0.0	4.3	26.1	0.0

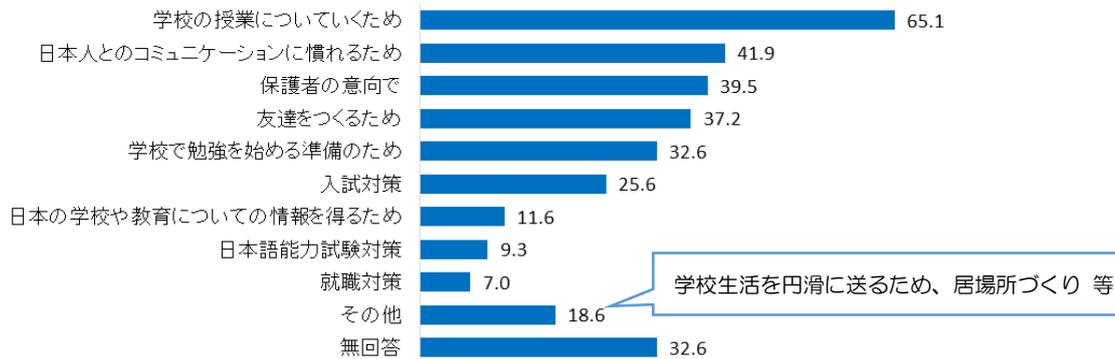
- ・日本語学習の主な目的・目標については、大人対象の教室、子ども対象の教室別に聞きました。
- ・大人教室（n=85）では、「日本人とのコミュニケーション」を91.8%があげ、続いて「日本語能力試験対策」70.6%、「就職対策」52.9%、「生活情報を入手するため」50.6%、「子育て・子どもの教育のため」49.4%が多くなっています。

日本語学習の主な目的・目標（問2④-A）大人教室）MA n=85（単位：％）※多い順



- ・子ども教室（n=43、子ども教室及び子どもを含む教室）では、「学校の授業についていくため」65.1%に次いで「日本人とのコミュニケーションに慣れるため」41.9%、「保護者の意向で」39.5%、「友達をつくるため」37.2%、「入試対策」25.6%の順で多くなっています。

日本語学習の主な目的・目標（問2④-B）子ども教室）MA n=43（単位：％）※多い順



●学習者の傾向

- ・学習者の最近3年間程度の増減傾向については、「増えた・少し増えた」が55.6%、「横ばい」が25.0%、「少し減った・減った」は14.8%となっています。増減の傾向としては、技術者や技能実習生とその家族の増加、「就業者が増え平日夜や週末の希望が増えた」といった記述がみられます。

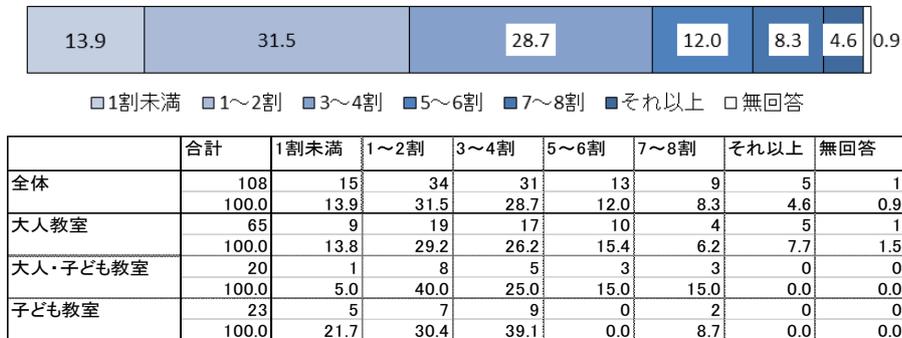
学習者の最近3年間程度の増減傾向（問2⑤） n=108（単位：％）



	合計	増えた	少し増えた	ほぼ横ばい	少し減った	減った	無回答
全体	108	37	23	27	12	4	5
	100.0	34.3	21.3	25.0	11.1	3.7	4.6
大人教室	65	23	11	17	8	3	3
	100.0	35.4	16.9	26.2	12.3	4.6	4.6
大人・子ども教室	20	8	6	4	1	1	0
	100.0	40.0	30.0	20.0	5.0	5.0	0.0
子ども教室	23	6	6	6	3	0	2
	100.0	26.1	26.1	26.1	13.0	0.0	8.7

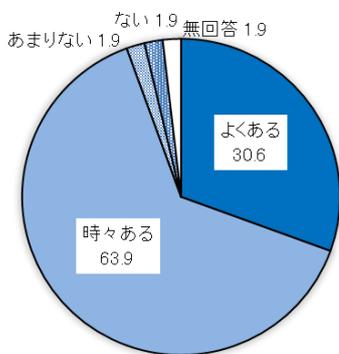
- 日本語が入門レベルの学習者の割合は、「1～2割」31.5%、「3～4割」28.7%、「5割以上」24.9%、「1割未満」13.9%の順であげられています。教室の区分別にみると、入門レベルの学習者は、大人のほうが多くなっています。「入門レベル者への対応で困ること」としては、支援者の不足による対応の困難さが多く記述されました。

日本語が入門レベルの学習者の割合（問2⑥） n=108（単位：％）



- 学習者が途中で通わ（え）なくなるケースは、「時々ある」63.9%、「よくある」30.6%との回答状況です。その理由としては、就職や勤務状況の変化など就業上の都合、妊娠出産をはじめ家族の都合、転居、体調不良、進学等が多くあげられたほか、希望する学習内容と合わないといった記述もみられます。
- 学習者が学習を継続できるようにするための工夫については、学習者と支援者との関係づくり、密な連絡などコミュニケーションの重視、学習者の希望やレベルに合わせた学習の内容や方法の工夫、参加しやすくするための調整など、多くの記述がみられます。

学習者が途中で教室に通わ（え）なくなることがあるか（問2⑦） n=108（単位：％）



通わ（え）なくなる理由（記述） ※回答数：87教室 157件

- ・仕事の都合 48件（就職・転職、勤務シフトの変化、多忙、仕事がつくて等）
- ・転居・帰国 37件（仕事の都合、学生の進路等）
- ・家庭の都合 24件（妊娠・出産、子どもの入学入園等）
- ・学業の都合 15件（塾、部活等）
- ・教室が合わず 10件（学習内容が希望と合わない、担当者が定まらない等）
- ・意欲の低下 9件
- ・体調不良 8件
- ・理由は不明 6件

	合計	よくある	時々ある	あまりない	ない	無回答
全体	108	33	69	2	2	2
	100.0	30.6	63.9	1.9	1.9	1.9
大人教室	65	21	39	2	1	2
	100.0	32.3	60.0	3.1	1.5	3.1
大人・子ども教室	20	10	10	0	0	0
	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
子ども教室	23	2	20	0	1	0
	100.0	8.7	87.0	0.0	4.3	0.0

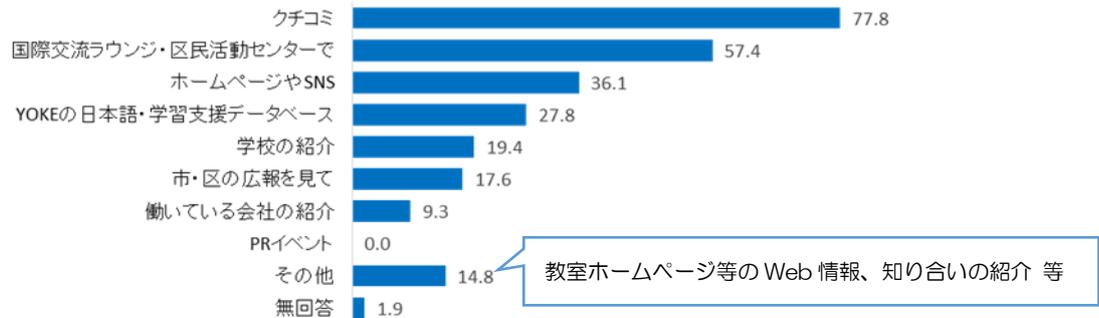
学習継続のための工夫（問2⑧）記述 ※回答数：95教室 114件

分類（件）	具体的な記述内容（抜粋・要約）
コミュニケーションの重視（42）	・ボランティアと学習者のコミュニケーション／関係づくりを重視 ・メールや電話でのコンタクトを重ねる。 ・次回の学習内容を伝える。 等
学習の内容や方法の工夫（40）	・学習者の希望／レベルに合わせた学習内容 ・継続証等の授与によるモチベーション喚起 ・生活に密接した題材の導入 ・マンツーマンの対応 等
居心地や楽しみの重視（13）	・楽しい教室づくり ・居場所としての雰囲気づくり ・イベント開催 等
参加しやすく調整（12）	・学習者の都合に合わせて学習日・時間をフレキシブルに設定／他グループへの移動調整 ・乳幼児連れへの対応（同伴を許可／キッズルームで託児／保育ボランティアと連携） 等
学習以外の支援（4）	・生活上の相談に乗る ・生活上の支援（病院や役所窓口への同行、学校関係の翻訳）
支援体制の工夫（3）	・支援者の指導力向上 ・大学生ボランティアの受入 ・ボランティア発掘

●教室に入ったきっかけ

- ・学習者が教室に入ったきっかけは、「クチコミ」が77.8%で1位、「国際交流ラウンジ・区民活動センター」が57.4%で2位となっており、次いで「ホームページやSNS」「YOKEの日本語・学習支援データベース」などウェブ情報も多くなっています。教室の区別にみると、子どもは、特に「クチコミ」と「学校の紹介」の割合が高くなっていることがわかります。

学習者が教室に入ったきっかけ（問3）MA3つまで n=108（単位：%）※多い順



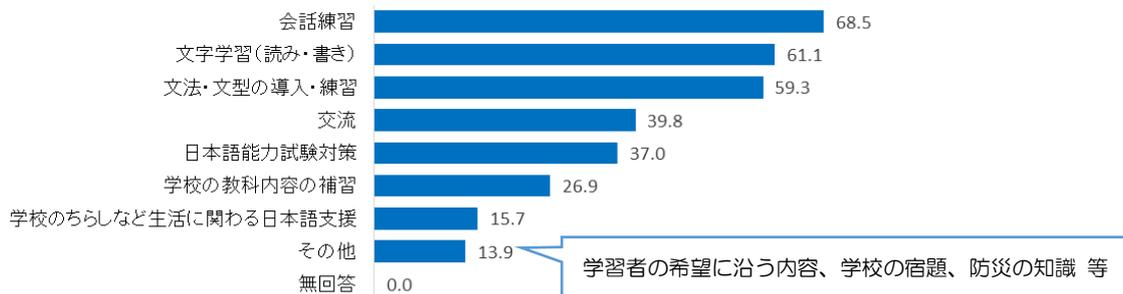
	合計	YOKEの「日本語・学習支援」	国際交流ラウンジ・区民活動センター	市・区の広報を見て	学校の紹介	働いている会社の紹介	クチコミ	ホームページやSNS	PRイベント	その他	無回答
全体	108 100.0	30 27.8	62 57.4	19 17.6	21 19.4	10 9.3	84 77.8	39 36.1	0 0.0	16 14.8	2 1.9
大人教室	65 100.0	24 36.9	34 52.3	15 23.1	1 1.5	9 13.8	47 72.3	25 38.5	0 0.0	13 20.0	2 3.1
大人・子ども教室	20 100.0	6 30.0	13 65.0	4 20.0	1 5.0	1 5.0	16 80.0	11 55.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0
子ども教室	23 100.0	0 0.0	15 65.2	0 0.0	19 82.6	0 0.0	21 91.3	3 13.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0

(3) 学習の方法や内容について

●学習の内容と方法

- ・特に意識して取り入れている学習内容としては、「会話練習」68.5%、「文字学習」61.1%、「文法・文型」59.3%に続いて、「交流」を39.8%があげています。子ども教室では、「学校の教科内容の補習」「文字学習」のウェイトが高くなっています。

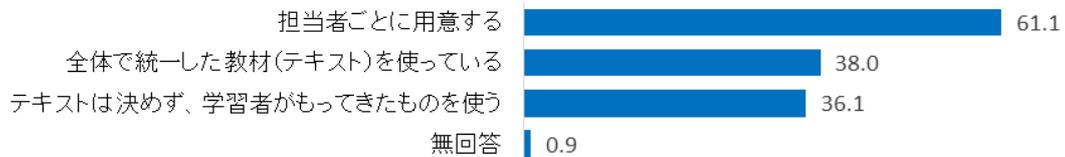
特に意識して取り入れている学習内容（問4①）MA n=108（単位：%）※多い順



	合計	会話練習	文法・文型の導入・練習	文字学習(読み・書き)	日本語能力試験対策	学校の暮らしなど生活に関わる日本語支援	学校の教科内容の補習	交流	その他	無回答
全体	108 100.0	74 68.5	64 59.3	66 61.1	40 37.0	17 15.7	29 26.9	43 39.8	15 13.9	0 0.0
大人教室	65 100.0	53 81.5	46 70.8	37 56.9	27 41.5	12 18.5	4 6.2	25 38.5	6 9.2	0 0.0
大人・子ども教室	20 100.0	15 75.0	12 60.0	12 60.0	8 40.0	4 20.0	6 30.0	7 35.0	3 15.0	0 0.0
子ども教室	23 100.0	6 26.1	6 26.1	17 73.9	5 21.7	1 4.3	19 82.6	11 47.8	6 26.1	0 0.0

- 教材（テキスト）は、「担当者ごとに用意」61.1%、「全体で統一した教材を使用」38.0%、「テキストは決めず、学習者がもってきたものを使う」36.1%（子ども教室では9割弱）となっています。

教材（テキスト）（問4②） MA n=108（単位：%）※多い順



	合計	全体で統一した教材(テキスト)を使っている	テキストは決めず、学習者がもってきたものを使う	担当者ごとに用意する	無回答
全体	108	41	39	66	1
	100.0	38.0	36.1	61.1	0.9
大人教室	65	32	14	39	0
	100.0	49.2	21.5	60.0	0.0
大人・子ども教室	20	7	5	14	1
	100.0	35.0	25.0	70.0	5.0
子ども教室	23	2	20	13	0
	100.0	8.7	87.0	56.5	0.0

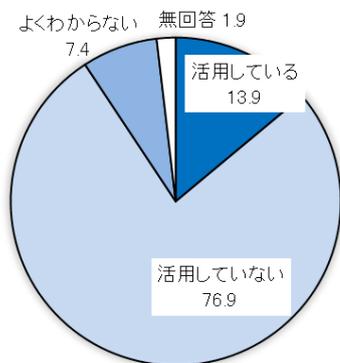
具体的な教材名等

- 既存のテキスト：多い順に、「みんなの日本語」「いっぽにほんごさんぽ」「できる日本語」等
- 教室オリジナルのテキスト・ワークシート
- 子ども教室では、学校の宿題プリント・教科書 等

●ICTの活用状況

- 学習へのICT（情報通信技術）の活用は、「活用していない」が76.9%と多く、「活用している」は13.9%となっています。

学習にICTを活用しているか（問4③） n=108（単位：%）



記述内容より（抜粋・要約）

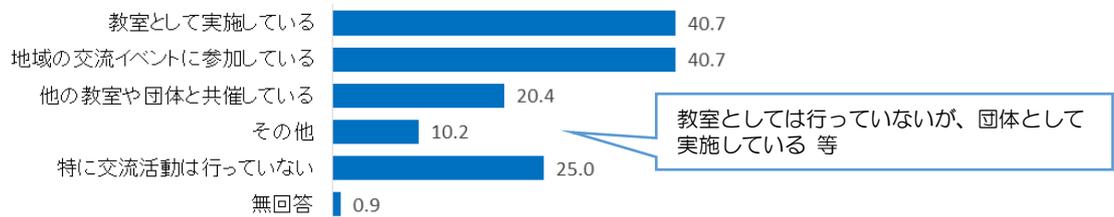
- （教室としては活用していないが）支援者間、支援者と学習者の連絡でモバイル機器を活用している。（多数）
- ICTを活用した学習法も有効と思うが未活用。
- 施設の通信環境・機材が未整備。
- 支援者のリテラシーが追いついていない。等

	合計	活用している	活用していない	よくわからない	無回答
全体	108	15	83	8	2
	100.0	13.9	76.9	7.4	1.9
大人教室	65	11	48	4	2
	100.0	16.9	73.8	6.2	3.1
大人・子ども教室	20	3	14	3	0
	100.0	15.0	70.0	15.0	0.0
子ども教室	23	1	21	1	0
	100.0	4.3	91.3	4.3	0.0

●学習者以外も参加できる交流活動

- 学習者以外も参加できる交流活動等の実施については、「教室として実施している」「地域の交流イベントに参加している」が各 40.7%、「他の教室や団体と共催している」が 20.4%で、「特に交流活動は行っていない」も 25.0%みられます。

学習者以外も参加できる交流活動等の実施状況（問 5①） MA n=108（単位：％）※多い順



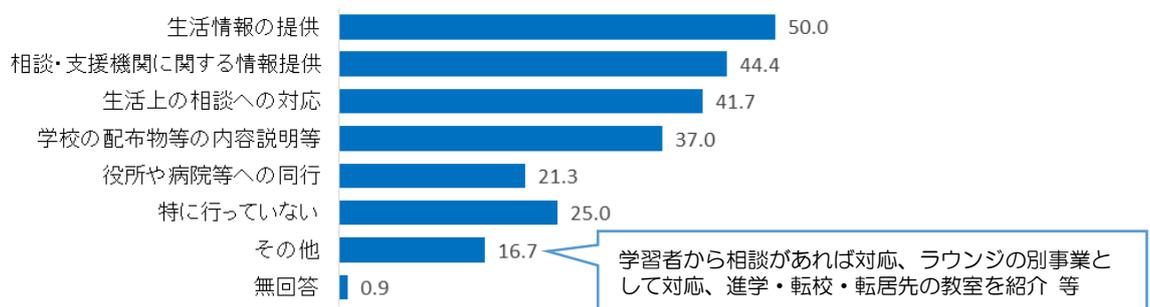
	合計	教室として実施している	他の教室や団体と共催している	地域の交流イベントに参加している	特に交流活動は行っていない	その他	無回答
全体	108	44	22	44	27	11	1
	100.0	40.7	20.4	40.7	25.0	10.2	0.9
大人教室	65	22	9	21	18	7	1
	100.0	33.8	13.8	32.3	27.7	10.8	1.5
大人・子ども教室	20	12	2	9	4	4	0
	100.0	60.0	10.0	45.0	20.0	20.0	0.0
子ども教室	23	10	11	14	5	0	0
	100.0	43.5	47.8	60.9	21.7	0.0	0.0

- 記述された活動をみると、学習者の家族や卒業生を加えての季節の行事・イベント、ラウンジ等での地域交流イベント、学習発表会、教室を出て日本文化にふれる見学会、支援人材養成のための研修等が多くあげられています。防災訓練、介護について学ぶ機会などもみられます。

●学習支援以外で行っている支援

- 学習支援以外で行っている支援としては、「生活情報の提供」50.0%、「相談・支援機関に関する情報提供」44.4%、「生活上の相談への対応」41.7%、「学校の配布物等の内容説明等」37.0%（子ども教室では 6 割半）の順で多くあげられています。

学習支援以外で行っている支援（問 5②） MA n=108（単位：％）※多い順



	合計	学校の配布物等の内容説明等	生活情報の提供	相談・支援機関に関する情報提供	生活上の相談への対応	役所や病院等への同行	特に行っていない	その他	無回答
全体	108	40	54	48	45	23	27	18	1
	100.0	37.0	50.0	44.4	41.7	21.3	25.0	16.7	0.9
大人教室	65	17	28	28	26	12	17	10	1
	100.0	26.2	43.1	43.1	40.0	18.5	26.2	15.4	1.5
大人・子ども教室	20	8	13	10	8	5	5	3	0
	100.0	40.0	65.0	50.0	40.0	25.0	25.0	15.0	0.0
子ども教室	23	15	13	10	11	6	5	5	0
	100.0	65.2	56.5	43.5	47.8	26.1	21.7	21.7	0.0

(4) 日本語学習支援の体制について

●支援スタッフ数

- 支援スタッフの人数（実質的な活動者数）は、最少1人から最多73人まで幅があり、20人未満の教室が多くなっています。支援者1人当たりの学習者数は平均1.7人です。日本語が母語でない支援スタッフは、108教室中20教室（全体の18.5%）で見られます（計25人）。

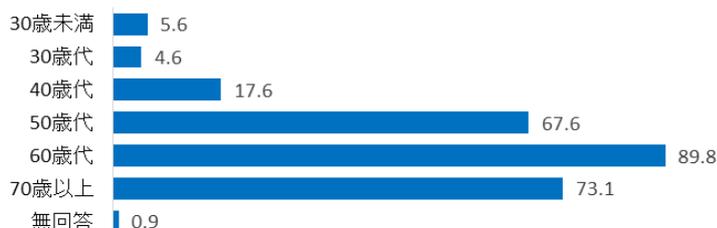
支援スタッフの人数（問6①）数量

	記入教室数	人数累計	n=記入教室数
支援スタッフの人数	106教室	1,221人	最少1人、最多73人、平均11.5人
うち日本語非母語者の人数	20教室	25人	108教室中の18.5%、1,221人中の2.0%

●支援スタッフの傾向

- 支援スタッフの主な年齢層は、60歳代、70歳以上、50歳代の順で多くあげられています。子ども教室では、10～20歳代のスタッフの割合がやや高くなっています。

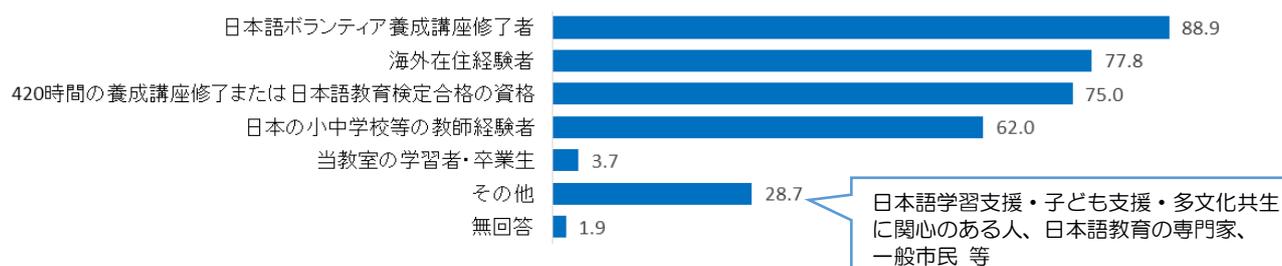
支援スタッフの主な年齢層（問6②）MA3つまで n=108（単位：%）



	合計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	108	1	6	5	19	73	97	79	1
	100.0	0.9	5.6	4.6	17.6	67.6	89.8	73.1	0.9
大人教室	65	0	1	1	13	43	55	50	1
	100.0	0.0	1.5	1.5	20.0	66.2	84.6	76.9	1.5
大人・子ども教室	20	0	1	2	3	15	19	17	0
	100.0	0.0	5.0	10.0	15.0	75.0	95.0	85.0	0.0
子ども教室	23	1	4	2	3	15	23	12	0
	100.0	4.3	17.4	8.7	13.0	65.2	100.0	52.2	0.0

- 支援スタッフは、「日本語ボランティア養成講座修了者」が88.9%と最も多く、次いで「海外在住経験者」77.8%、「420時間の養成講座修了または日本語教育検定合格の資格」75.0%、「日本の小中学校等の教師経験者」62.0%（子ども教室では8割強）と続いています。

支援スタッフはどんな人か（問6③）MA3つまで n=108（単位：%）



	合計	海外在住経験者	日本語ボランティア養成講座修了者	420時間の養成講座修了または日本語教育検定合格の資格	日本の小中学校等の教師経験者	当教室の学習者・卒業生	その他	無回答
全体	108	84	96	81	67	4	31	2
	100.0	77.8	88.9	75.0	62.0	3.7	28.7	1.9
大人教室	65	49	61	50	35	1	8	1
	100.0	75.4	93.8	76.9	53.8	1.5	12.3	1.5
大人・子ども教室	20	15	18	16	13	2	9	0
	100.0	75.0	90.0	80.0	65.0	10.0	45.0	0.0
子ども教室	23	20	17	15	19	1	14	1
	100.0	87.0	73.9	65.2	82.6	4.3	60.9	4.3

- 支援スタッフの最近3年間の増減傾向については、「増えた・少し増えた」45.4%（子ども教室では約7割）、「横ばい」35.2%、「少し減った・減った」は13.9%となっています。

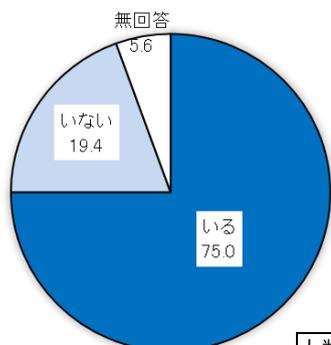
支援スタッフの最近3年間程度の増減傾向（問6④） n=108（単位：%）



	合計	増えた	少し増えた	ほぼ横ばい	少し減った	減った	無回答
全体	108	19	30	38	9	6	6
	100.0	17.6	27.8	35.2	8.3	5.6	5.6
大人教室	65	11	12	24	7	6	5
	100.0	16.9	18.5	36.9	10.8	9.2	7.7
大人・子ども教室	20	2	8	9	1	0	0
	100.0	10.0	40.0	45.0	5.0	0.0	0.0
子ども教室	23	6	10	5	1	0	1
	100.0	26.1	43.5	21.7	4.3	0.0	4.3

- この1年間に新規で入ったスタッフは、「いる」と75.0%（子ども教室では9割弱）が答えています。新規参入者の人数は1教室あたり平均8.8人（最少1人、最多97人）、うち現在もスタッフとして継続している人は平均6.5人（最少1人、最多60人）となっています。「ボランティア養成講座修了者が一挙に入り、1年以内に辞めていく人もいる」といった記述もみられます。

この1年間に新規で入ったスタッフの有無（問6⑤） n=108（単位：%）



	合計	いる	いない	無回答
全体	108	81	21	6
	100.0	75.0	19.4	5.6
大人教室	65	47	17	1
	100.0	72.3	26.2	1.5
大人・子ども教室	20	14	2	4
	100.0	70.0	10.0	20.0
子ども教室	23	20	2	1
	100.0	87.0	8.7	4.3

人数記入状況

	記入教室数	人数累計	n=記入教室数
新規参加者数	81 教室	711 人	最少1人、最多97人、平均8.8人
うち現在の継続者数	78 教室	510 人	最少1人、最多60人、平均6.5人

- 支援スタッフに求めることは、「安定的に通えること」67.6%、「学習者と共感できる力」66.7%、「日本語を教えるための知識とスキルを得ようとする気持ち」60.2%が上位にあげられています。「ボランティア養成講座を受けていること」は32.4%があげています。

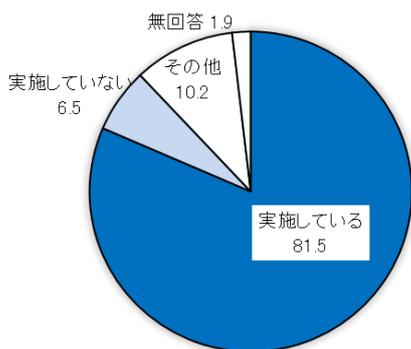
支援スタッフに何を求めるか（問 6⑥） MA3 つまで n=108（単位：％）※多い順



	合計	「正しい日本語」が使えること	日本語を教えるための知識とスキルを得ようとする気持ち	ボランティア養成講座を受けていること	日本語支援の経験があること	420時間の養成講座修了または日本語教育能力検定合格の資格	学習者と共感できる力	安定的に通えること	その他	無回答
全体	108	15	65	35	8	4	72	73	14	4
	100.0	13.9	60.2	32.4	7.4	3.7	66.7	67.6	13.0	3.7
大人教室	65	9	47	27	5	3	38	41	4	3
	100.0	13.8	72.3	41.5	7.7	4.6	58.5	63.1	6.2	4.6
大人・子ども教室	20	4	9	7	3	1	12	12	6	0
	100.0	20.0	45.0	35.0	15.0	5.0	60.0	60.0	30.0	0.0
子ども教室	23	2	9	1	0	0	22	20	4	1
	100.0	8.7	39.1	4.3	0.0	0.0	95.7	87.0	17.4	4.3

- 支援スタッフのミーティングは、「実施している」が81.5%で、「実施していない」は6.5%となっています。「その他」の内容としては、メンバーや回数を限って実施している等の記述が複数みられます。

スタッフミーティングの有無（問 6⑦） n=108（単位：％）

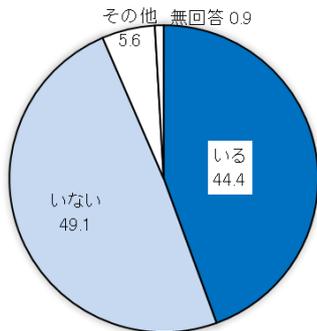


	合計	実施している	実施していない	その他	無回答
全体	108	88	7	11	2
	100.0	81.5	6.5	10.2	1.9
大人教室	65	56	5	2	2
	100.0	86.2	7.7	3.1	3.1
大人・子ども教室	20	16	0	4	0
	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0
子ども教室	23	16	2	5	0
	100.0	69.6	8.7	21.7	0.0

●運営体制

- 運営（事務）などの専任者の有無は、「いない」49.1%、「いる」44.4%となっています。

運営（事務）などの専任者の有無（問7①） n=108（単位：％）

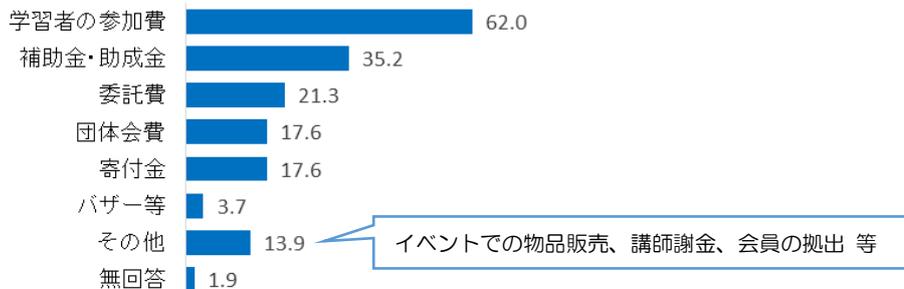


	合計	いる	いない	その他	無回答
全体	108	48	53	6	1
	100.0	44.4	49.1	5.6	0.9
大人教室	65	31	29	4	1
	100.0	47.7	44.6	6.2	1.5
大人・子ども教室	20	7	11	2	0
	100.0	35.0	55.0	10.0	0.0
子ども教室	23	10	13	0	0
	100.0	43.5	56.5	0.0	0.0

●運営費等

- 運営費の主な財源（調達方法）は、「学習者の参加費」を62.0%があげ、次いで「補助金・助成金」が35.2%（子ども教室では5割強）となっています。

運営費の主な財源（調達方法）（問7②）MA3つまで n=108（単位：％）※多い順



	合計	学習者の参加費	団体会費	委託費	補助金・助成金	寄付金	バザー等	その他	無回答
全体	108	67	19	23	38	19	4	15	2
	100.0	62.0	17.6	21.3	35.2	17.6	3.7	13.9	1.9
大人教室	65	50	11	13	20	2	1	4	1
	100.0	76.9	16.9	20.0	30.8	3.1	1.5	6.2	1.5
大人・子ども教室	20	13	2	4	6	7	2	6	0
	100.0	65.0	10.0	20.0	30.0	35.0	10.0	30.0	0.0
子ども教室	23	4	6	6	12	10	1	5	1
	100.0	17.4	26.1	26.1	52.2	43.5	4.3	21.7	4.3

- 支援スタッフへの報酬は、「無償」が53.7%、「交通費・コピー代等の実費支給」が26.9%で、「有償」は7.4%となっています。

スタッフへの報酬（問7③）MA n=108（単位：％）※多い順



コピー代のみ、交通費のみ、交通費相当額、交通費の一部、資料代等

	合計	有償	交通費・コピー代等の実費支給	無償	その他	無回答
全体	108	8	29	58	24	2
	100.0	7.4	26.9	53.7	22.2	1.9
大人教室	65	7	14	33	17	2
	100.0	10.8	21.5	50.8	26.2	3.1
大人・子ども教室	20	1	5	12	6	0
	100.0	5.0	25.0	60.0	30.0	0.0
子ども教室	23	0	10	13	1	0
	100.0	0.0	43.5	56.5	4.3	0.0

(5) 横浜市域で

●外部との交流・連携

- 外部との交流や、連携して実施している活動について、交流・連携先の主体別に記入していただいたところ、「ラウンジ」との連携活動を半数があげ、次いで「区」「YOKE」「他の地域日本語教室」の順で多くなっています。交流・連携の内容は、活動情報の受発信、イベント・研修等への参加、学習者の支援に関わる情報交換等が多くなっています。

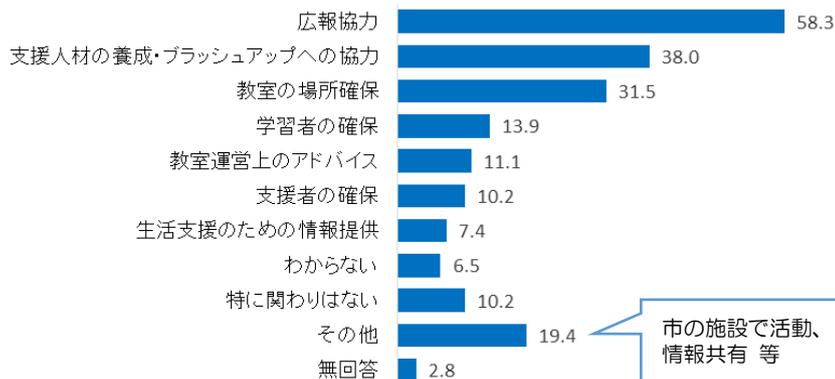
外部との交流や、連携して実施している活動（問8①）MA記述 ※記入状況をカウント（多い順）

交流・連携先	記入教室数	主な活動内容（概要）
国際交流ラウンジ	54	ラウンジの教室、学習者・支援者紹介（他区ラウンジとの連絡も）、イベント参加、活動情報の受発信等
区役所	48	委託元、学習者の受入、イベント参加、場所確保、助成金等
YOKE	45	教室データベース登録、情報受発信、講習・研修参加、連絡会参加等
地域日本語教室	38	連絡会参加、情報交換、講座・研修や学習者支援での相互協力等
横浜市	26	児童生徒の受入、活動場所の確保、助成金等
地元の学校（小中高等）	26	学習者の受入、情報共有、学習等のサポート、多文化共生活動への協力等
日本語教育機関	18	支援スタッフの紹介（受講者・修了者の活躍）、講師依頼等
企業・業界団体等	14	助成金、従業者向け教室、区内介護施設と交流等
外国人団体	2	広報
その他	22	大学、県、社会福祉協議会、地区センター、自治会等

●横浜市やYOKEとの関わり

- 横浜市やYOKEとの関わりとしては、「広報協力」58.3%（子ども教室では8割弱）が最も多く、これに「支援人材の養成・ブラッシュアップ」38.0%、「教室の場所確保」31.5%が続いています。

横浜市やYOKEとの関わり（問8②）MA n=108（単位：%）※多い順

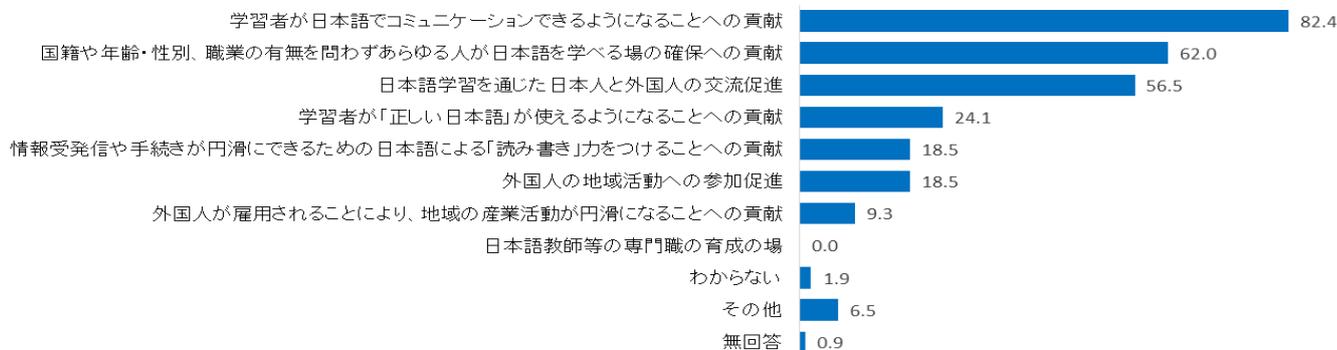


	合計	教室の場所確保	広報協力	学習者の確保	支援者の確保	支援人材の養成・ブラッシュアップへの協力	教室運営上のアドバイス	生活支援のための情報提供	わからない	特に関わりはない	その他	無回答
全体	108	34	63	15	11	41	12	8	7	11	21	3
	100.0	31.5	58.3	13.9	10.2	38.0	11.1	7.4	6.5	10.2	19.4	2.8
大人教室	65	23	34	10	7	18	5	4	7	5	10	3
	100.0	35.4	52.3	15.4	10.8	27.7	7.7	6.2	10.8	7.7	15.4	4.6
大人・子ども教室	20	6	11	3	3	12	2	3	0	4	5	0
	100.0	30.0	55.0	15.0	15.0	60.0	10.0	15.0	0.0	20.0	25.0	0.0
子ども教室	23	5	18	2	1	11	5	1	0	2	6	0
	100.0	21.7	78.3	8.7	4.3	47.8	21.7	4.3	0.0	8.7	26.1	0.0

●地域日本語教室の役割

- 横浜市域における地域日本語教室の役割をどう考えるかについては、「学習者が日本語でコミュニケーションできるようになることへの貢献」82.4%、「あらゆる人が日本語を学べる場の確保への貢献」62.0%、「日本語学習を通じた日本人と外国人の交流促進」56.5%が上位にあげられています。

地域日本語教室はどんな役割を果たしていると思うか（問9①）MA3 つまで n=108（単位：％）※多い順



	合計	学習者が「正しい日本語」が使えるようになることへの貢献	学習者が日本語でコミュニケーションできるようになることへの貢献	情報発信や手続きが円滑にできるための日本語による「読み書き」力をつけることへの貢献	国籍や年齢・性別、職業の有無を問わずあらゆる人が日本語を学べる場の確保への貢献	日本語学習を通じた日本人と外国人の交流促進	外国人の地域活動への参加促進	外国人が雇用されることにより、地域の産業活動が円滑になることへの貢献	日本語教師等の専門職の育成の場	わからない	その他	無回答
全体	108	26	89	20	67	61	20	10	0	2	7	1
	100.0	24.1	82.4	18.5	62.0	56.5	18.5	9.3	0.0	1.9	6.5	0.9
大人教室	65	16	57	14	40	36	12	9	0	0	1	1
	100.0	24.6	87.7	21.5	61.5	55.4	18.5	13.8	0.0	0.0	1.5	1.5
大人・子ども教室	20	2	17	2	10	14	7	0	0	1	0	0
	100.0	10.0	85.0	10.0	50.0	70.0	35.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0
子ども教室	23	8	15	4	17	11	1	1	0	1	6	0
	100.0	34.8	65.2	17.4	73.9	47.8	4.3	4.3	0.0	4.3	26.1	0.0

●地域日本語教室の充実に向けて必要なこと

- 地域日本語教室の充実に向けて必要なこととしては、「学習の場の確保」69.4%、「継続的な学習への支援」45.4%、「初期日本語」44.4%が上位にあげられています。

地域日本語教室の充実に向けて必要なこと（問9②）MA3 つまで n=108（単位：％）※多い順



	合計	初期日本語	就労のための日本語	日本語能力試験対応	学習の場の確保	継続的な学習への支援	学習中の保育	教材の充実	教室間のネットワーク	相談窓口との連携	地域日本語教育コーディネーターの配置	わからない	その他	無回答
全体	108	48	25	14	75	49	26	15	13	16	9	2	14	0
	100.0	44.4	23.1	13.0	69.4	45.4	24.1	13.9	12.0	14.8	8.3	1.9	13.0	0.0
大人教室	65	32	21	12	47	31	22	10	9	9	4	0	1	0
	100.0	49.2	32.3	18.5	72.3	47.7	33.8	15.4	13.8	13.8	6.2	0.0	1.5	0.0
大人・子ども教室	20	10	1	1	14	6	2	1	0	5	1	1	7	0
	100.0	50.0	5.0	5.0	70.0	30.0	10.0	5.0	0.0	25.0	5.0	5.0	35.0	0.0
子ども教室	23	6	3	1	14	12	2	4	4	2	4	1	6	0
	100.0	26.1	13.0	4.3	60.9	52.2	8.7	17.4	17.4	8.7	17.4	4.3	26.1	0.0

●日本語学習がしやすい地域づくり、これを通じた多文化共生のまちづくりに向けて

- 日本語学習がしやすい地域づくり、これを通じた多文化共生のまちづくりに向けては、「教室の場所確保を」「支援スタッフの確保が必要」「子育て中も学習できるよう保育対応のある教室を」「入門レベルの初期日本語学習への対応を（公的な実施等）」といった意見が多くみられます。また、「学齢期に学べなかった人への対応が必要」「地域で日本人と交流できる仕組みづくりが必要」「教室情報が外国人に届く工夫が必要」「小さくても身近に通える教室が多くあるとよい」といった記述もみられます。

日本語学習がしやすい地域づくり、これを通じた多文化共生のまちづくりに向けての提案や意見（問 9③）記述 ※回答数：66 教室 152 件

分類	具体的な記述内容（抜粋・要約）
学習のニーズや必要への対応について（54 件）	<p><多様な教室を></p> <p>○保育への対応を（16 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て中の学習者のため保育ボランティアが必要（教室と同じフロアに子育て支援の場があるが保護者同伴でしか利用できない）。 乳幼児がいて日本語教室へ来られない、昼間は仕事で通えないという問題がある。保育もついて朝・昼・晩と毎日クラスがあり、その教室を各団体が手分けして請け負うことができるような場所があるとよい。 <p>○入門レベルの日本語対応を（15 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 初級の日本語を多くの学習者がもっと気軽に便利に学べる場所を多く設置してはどうか。 行政が、日本語入門レベルの基礎を、費用をかけずに学べる学習の場を設置すべきと考える。 学ぶ意欲を持った時、短期集中的に基礎を学びたいと思ってもボランティア教室は週 1 回の実施がほとんど。教室を渡り歩くことになりロスが多い。せめて週 3 回の専門家による学習の場がほしい。 <p>○夜間対応を（6 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昼間は仕事をして夜に学習したい学習者が多い。現在の週 1 回から 2 回開催する検討はしているが、開催場所に問題がある。 <p>○子どものために（3 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの学習支援の充実を（オーバーエイジの高校受験や高校中退者の受け皿や支援）。 小中学校で支援が十分に受けられず学力や日本語力が不十分で社会とつながれない人たちが一定数いると思う。社会参加や就労支援機関の情報が届かない、参加しても言葉の面で孤立して続かないなど。
	<p><アクセスしやすく></p> <p>○身近なところで通いやすく（7 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続しやすい条件としては、住んでいる地域・働いている地域の近くに学習する場所がある（交通便利で交通費負担を感じない）こと。 大きな場所は必要なく、比較的小さい場所が点在しているほうがよい。 学習者が興味あるテーマを通じて日本語を学べる教室を設ける（例：料理、演劇、ゲーム、日本文化に関するものなど）。 <p>○教室情報の提供を（7 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人が定住する地域、働く場所などに多くの綿密な情報提供を（パンフレットを置くだけでなく、人を介しての情報提供、回覧板のような仕組みも）。 日本語を学習したいと思っても実際にアクセスするのはハードルが高いようだ。クチコミでつながることが多い。もっと気軽に参加できるような広報のあり方があるとよい。 情報を提供する交流掲示板のようなサイトを立ち上げ、活動者による活用、外国人の認知度を上げる取組ができるとよい。
教室運営の円滑化について（50 件）	<p><教室の運営></p> <p>○開催場所の確保を（20 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場の確保に苦労する教室もある。会場だけでも行政の責任で確保できるとよい。 市民の多文化意識やコミュニケーションのためにも身近にある学校施設を活用してはどうか。教室、教材、コピー等の設備の開放も検討されたい。 <p>○活動費の支援を（6 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアに交通費は支払い、経済的負担を少なくしたい。 スタッフに交通費を支給するための助成、教材や機材の購入費の助成があるとよい。 <p>○円滑な学習支援を（2 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者が求めているものと、教える側がマッチできること。

	<p><人材の確保・活躍></p> <p>○支援スタッフの確保を（18件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者の増員要望に応えたいが、慢性的なスタッフ不足のため困難。様々な機会に募集しているが、スタッフの確保になかなかつながらない。個別での募集活動に限界を感じる。 <p>○外国人の活躍を（4件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入門レベルでは母語による説明がほしいという意見もある。初級終了以降の学習者が日本人とペアになって新規学習者をボランティアとして支援する仕組みがあってもよい。 ・外国人だけがいつも受け手という構図の壁がある。外国人からの発信を促したい。若い人たち、学生と、これからの日本社会について一緒に考え、行動する機会をつくりたい。
<p>連携による学習者支援の推進について （48）</p>	<p><異分野との連携></p> <p>○子育て支援との連携（11件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日本語力が伸び母語より楽になると、保護者と子どもの間に溝ができる。子育て期は子どもの支援が保護者の支援につながり、保護者の支援が子どもの支援にもつながる。子ども・青少年部局、福祉関連部局など子育て期の家族と接する窓口で、外国人多言語相談窓口や地域の日本語教室の存在を伝えてほしい。 <p>○企業との関係づくり（8件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業からの従業員教育依頼が多い。企業側の教育への熱意が不可欠。教室に「まるなげ」するだけの企業からの学習者は出席も不確実で長続きしない。区内の介護施設とは密に連絡を取っており協力的。 <p>○福祉情報の提供等（5件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度とサービスの利用についての情報は日本人の間でもわかりにくい。地域ケアプラザも十分に知られていない。日本語を母語としない高齢者や家庭が理解する学習機会を自治体として設けて。 <hr/> <p><地域の中での関係づくり></p> <p>○日本人の理解促進を（6件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの翻訳機能、やさしい日本語の活用等で支援の必要は減ったが、地域の中でなかなかうまくコミュニケーションが取れていない。外国人だけが、いつも受け手という構図の壁がある。地域住民は、外国人＝英語と考えがちで、面と向かうことに尻込みしてしまう。 <p>○地域での交流を（5件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を習っても日本人の友だちがいない、日本人と話す機会がないと学習者から聞く。同国者同士のつながりが強く、なかなか同世代の日本人と個人的な付き合いをつくり上げるのが難しい。ホームパーティーのような場が定期的にあるとよいのかもしれない。 ・個々の日本人が隣人として助け合える関係を築いていくことが最も大切。まず多数派から一歩を。温かいあいさつから始め、地域の行事を知らせ、交流機会に同行するなど。 <hr/> <p><連携体制づくり></p> <p>○教室間で連携できるように（6件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家による低料金の教室（いつでも学べる6か月コースの初期日本語教室等）を設置し、多文化共生をめざす地域のボランティア教室と連携がとれる仕組みを構築したい。 ・市内に数多くの日本語教室があるが、それぞれ独立した運営で、教室間の横のつながりが弱い。指導技術の向上策、教室の持つ課題や問題点、学習者の過不足問題、学習者の状況等に関して、教室間での情報共有や何らかの連携のできる機能があるとよい。 <p>○広域連携が必要（3件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区よりもう少し広いエリアで連携できるとよい。川の対岸に中小企業の集積があり、バス10分圏に隣区の大規模団地がある。地域の持つ特性、商業圏など人の往来の目線で情報共有等ができるとうよい。 <p>○拠点づくりを（4件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内に国際交流ラウンジ機能がほしい。外国の方・地域住民が交流でき、外国の方が困った時に情報を手に入れることができる場所が必要。

団体訪問・ヒアリング等調査の結果より

～地域日本語教室へのヒアリングから～

<学習者の状況>

- ・入門レベルの学習者は結構来る。が、その後、来たり来なかったり。テキストを使うのが難しい。
- ・入門レベルの学習者も多く入ってくる。おしゃべりができればよいという人、話せるが読み書きができない人や、検定を目指す人など、学習者のニーズは様々な様子。
- ・難民申請中の人日本語教室に来ている。
- ・4～5年続いている人もいる。子どももOK。小さい子はキッズルームにボランティアと行ったりする。小学生などは勉強を一緒に行う。
- ・発達上の課題か日本語力か、心配な子どものケースとその対応が課題だ。(子ども教室)

<ボランティア不足・高齢化>

- ・ボランティアはなかなか増えず、現在のメンバーでほぼ固定。ぜひ若い方に入っていただきたい。
- ・日本語ボランティアが安定的に増えてくれるとよいと思う。高齢化が課題。リーダーになっている人の雰囲気、新しい人の定着もずいぶん変わる。今はとてもいい雰囲気。

<外国人当事者ボランティアの受入>

- ・滞日10年の外国人住民が、滞日1年の外国人住民をサポートしている。
- ・中2で来日した大学生(社会人になり今は休止中)や、今日、来ていた市内大学へ進学内定の高3生の参加は心強い。(子ども教室)

<場所と資金の確保など大変なこと>

- ・場所が固定できるとよいが、現在は、毎月くじ引きに参加している。学校の空き教室などが使えるとありがたい。(子ども教室)
- ・部屋代が払えず、スタッフ持ち出しで続けた時期もある。限られた予算(学習者からの1回200円の参加費)でやりくりをしている。
- ・教材は図書館などで借りてきて1～2冊確保し、学習者に使ってもらっている。2人で1冊を共有。会の予算から買おうとは思いますが経費に余裕がない。

<連携を希望する団体・形式>

- ・ラウンジ、区内の教室(区主催のイベントなど)。
- ・小学校の連携協力もできればと思う。子育て支援拠点、多文化カフェのことは紹介したりしている。
- ・他区他市との交流もぜひしたい。

<行政・YOKEへ期待すること>

- ・日本語教室に対して、安定的な活動場所を確保してほしい(優先利用など)。子連れ対応をしてほしい(キッズスペース・保育)。
- ・技能実習生等の日本語教室への受け入れについては、学習者(や企業)と教室の間にクッションがほしい。どっと、まとまってくる。企業内で使う日本語についても、教えてほしいといわれる。
- ・ラウンジの日本語教室は初級を担い、話せるようになったら地域につなげてほしい。
- ・子ども対象の教室を開催してほしい。保護者向けの日本語教室がほしい(子どもの名前が書けないなどの課題がある)。
- ・自治会とのつながりをつくってほしい。